



- 今回は幼稚園でのエピソードをご紹介します。
- 幼稚園では外遊びの時間を大切にしています。「体を動かすこと」や「友だちと仲良く過ごすこと」「楽しく活動できるよう工夫すること」など、大げさにいうと外遊びには、人が社会の中で生きていくための基礎となる経験がたくさんあるからです。
- その日は少し暑かったのか体を動かす子どもが少なく「たくさん体を動かしてほしい」と用意しているキックボードや三輪車には、子どもたちがあまり興味を示していない様子でした。
- そこで私が「黄色くて大きな旗」を持ち出してきて、園庭の遊びコースにしゃがんでみました。私の意図を察してくれた担任の先生が『園長先生が踏み切りをしてくれるよ。』と声をかけてくれました。
- 様子が気になった子から少しずつ、キックボードや三輪車に乗り込んで、コースを通りながら私の所までやってきました。
- 『ジャンケンに勝ったら、この踏み切りは開くからね。』
- 遊びの中に「踏み切り」や「ジャンケン」いう要素を入れることで、子どもたちの意欲や興味が高まったのでしょうか。あっという間にコースに出て体を動かす子どもたちが増えていきました。
- 運動をしてもらいたい時に「運動しよう、がんばろう」と声かけするよりも、「何か面白そう、楽しそう」と思うような仕かけをしたほうが効果的だったという一例です。教育という営みは「声かけや指導」はもちろん、「興味づけや環境づくり」などの配慮が大切です。
- なお、参加者が増えて「踏み切り役」が大変になったころ、「踏み切り役」をやりたいと言い始める子どもが出てきました。もちろん、私が喜んで「踏み切り役」をゆずったことは言うまでもありません。遊びの主役は、やはり子どもたちです。

